



日本の灌漑農業について調査するアココさん(左)



ワークショップの後、参加した小学生と一緒に記念撮影。
タガメ役のアココさん(左端)は子どもたちにも大人気

**日本の農業技術を学び
母国の発展に生かす**

これまでに49カ国から留学生を受け入れているABEイニシアティブ

浦工業大学・理工学研究科に留学するアール・アロップ・デン・クオールさんは、「南スーダンでは建築デザイン関係の会社に勤めていました。自然素材や太陽光などを取り入れた、環境に優れてコストの低い住宅設計について学びたいと思います」と期待に胸を膨らませる。一方、立命館アジア太平洋大学・経営管理研究科に留学するリノ・ガブリエル・ワルク・アテムさんは、「このプログラムに参加できてうれしいです。会社経営や人材育成について学んで、将来は南スーダンで起業することが夢です」と話す。

イブ。受け入れ校の一つ、東京農工大学大学院を訪ねた。「私が担当している農学府の国際環境農学専攻では、ABEイニシアティブの留学生として、現在6人を受け入れています」。紹介してくれたのは、日本やアジアにおける水田の水利利用や水質調査を専門とする加藤亮准教授だ。「各国の農業の違いや、日本の強みである品質や技術力の高さ、水田と密接に関係する環境や生態系サービスについて学ぶことは、さまざまな農業問題を抱えるアフリカの留学生にとっても有益だと考えています」

水路などの建設計画がいくつも進められています」と話すアココさんは、ナイロビ大学を卒業後、ケニアで環境分野のコンサルティング企業に就職。より専門性を高めるため、農業技術の発達している日本への留学を決めたという。

現在、アココさんは、節水型の灌漑農業や、それによって米の生産量がどれくらい増加するのかに着目して研究を続けている。夏休みにはケニアに戻り、農家や行政担当者へのヒアリング調査も行った。加藤准教授は、「実は私自身、ケニアで米を主食とする人が増えているという現状を、アココさんから聞いて初めて知りました。留学事業を通じて他国の現状や課題を知る機会が生まれ、日本の大学にとっても良い影響をもたらしています」と話す。

学生半数以上を留学生が占める国際環境農学専攻では、議論の際にはそれぞれの国の実情を踏まえた多様な意見が飛び交う。「日本の学生の海外に対する関心を高めることにもつながっていて、実際に9月から2人の日本人学生が、研究のためにカンボジアやインドネシアを訪れています」と加藤准教授は話す。

また、学生たちは社会貢献活動にも取り組んでいる。今年8月には、子ども向けのイベント「丸の内キッズジャンボリー2016」

のワークショップに参加して、「水田の生き物の関係性」というテーマの下、ミニコントを披露した。そこで、アココさんはカエルを捕まえるタガメの役を演じた。そのインパクトに子どもたちは予想以上の反響があり、大成功に終わったという。

留学中の一番の思い出を尋ねると、「あり過ぎて決められない」と笑うアココさん。専門的な知識や技術を身に付けて母国の灌漑開発に貢献するという目標のほかに、もう一つ夢があるという。「日本とケニアの関係をもっともっと発展させたいと思っています」

アフリカの未来を照らす若者たちが、日本の学生と刺激し合いながら、目標に向かって突き進んでいる。

主に関東地域とインドネシア・ジャワ島の水田の研究を続ける加藤准教授。「留学生それぞれの母国の農業発展に期待しています」



**3期目に突入したプログラム
広がる留学生ネットワーク**

9月初旬、JICA東京に集まったのは、アフリカの国々から来日した約350人の若者たち。2013年の第5回アフリカ開発会議(TICAD V)で安倍総理が表明した『アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(ABEイニシアティブ)』「修士課程およびインターンシップ」プログラム』の留学生だ。5年間で1000人のアフリカの若者を日本に受け入れ、大学院での教育や企業でのインターンシップの機会を提供するこのプログラムは、今年9月に3期目をスタートさせた。

「日本では、コンビニの支払いや電車を待つときには、列に並びましょう」。この日は、来日したばかりの3期生へのオリエンテーションとして、現在日本で学んでいる最中の1、2期生との意見交換会が行なわれた。「日本の学生の印象は?」「携帯電話はどこで買えるの?」といった3期生からの質問に対して、先輩留学生が勉強面から生活面までさまざまなアドバイスを送った。ABEイニシアティブを通じた横のつながりは、留学生にとって心強い存在になっているようだ。

3期目では、初めて南スーダンからの留学生が11人来日した。芝

JICA東京で行われた意見交換会に出席したABEイニシアティブの3期生たち。これから、それぞれの留学先での大学生活が始まる



**アフリカの若者のための
産業人材育成イニシアティブ**
(ABEイニシアティブ)

東京農工大学大学院



意見交換会では先輩留学生への質問が相次いだ

アフリカの明日を担う若者たち

貿易、投資、資源開発など、日本にとってさまざまな面で存在感が高まっているアフリカ。留学生も例外ではなく、アフリカから日本にやって来る学生数は年々増加傾向にある。こうした中、アフリカの産業発展を牽引する若者を育成するための、新たなプログラムが始まっている。